



平成大改革承認

12月3日(土)、京大時計台ホールで京機会総会が199名出席の下に開かれ、数年来の赤字経営の立て直し、京機会の若返り活性化を志向する基本方針が了承されました。

1. 総会承認事項

(1) 会員資格の拡大

京機短信 No. 27 号 1 ページに

示す卒業生、学生、教員、関係者に会員範囲を拡大する。それにとまなう、会則の改正を行う。

(2) 賛助会員制度の導入

今後資格要件の詳細を審議確定し、次期春季総会にて審議決定の予定。

- ① フェロー制度 京機会活動に大きく貢献した人(含財政支援)。
- ② 永年会員制度 60歳以上で一定以上の纏まったお金(原案 50000 円)を振込まれた人。

(3) 学生年会費

全学生会員の年会費は一律 1000 円とし、平成18年度より実施する。

(4) 特別会計の積極的活用方針

京機会活動の活性化に繋がる積極的な企画案件については本部、支部、学生を問わず幹事会にて審議承認されたものには、特別会計を使うことも考える。

2. 今後の活性化事業

- ① 学生との連携事業への投資
- ② 支部交付金の増額(良き企画に対して)
- ③ 生き甲斐仕事紹介事業(実施の可否を含めて今後調査。)
- ④ 京機会運営の独立化(第二世紀事業会への依存性を薄めていく。)
- ⑤ 事務職委員の待遇改善(社会常識水準に合わせる。)
- ⑥ 大会内容の充実(金を払ってでも聞きたいような講演を企画しては)
- ⑦ 京機会ニュースの魅力化
- ⑧ 会員相互の常設の交流の場 (ホテルグランビア大阪で試行。 4 頁参照)



総会に先立ち、石山拓二氏(S53 卒、京都大学大学院 工学研究科 工学-変換科学専攻教授)の『エンジンの研究・教育』と題する、また、小谷重遠氏(S44 卒、(株)神戸製鋼所 代表取締役副社長)が『戦略的商品開発と当社圧縮機事業における成功例』の題する講演がありました。



総会に引き続き開かれました懇親会には、学生諸君をも含め史上最高の345名が参加、この席でも先輩と学生との交流活発に行われ、年齢にかかわらず京機会の一体感がもたらされました。



先輩と学生との交流会

京都大学機械系を卒業し、現在、様々な分野で活躍されている先輩を多数招いて、会社での仕事内容ややりがい、就職活動、大学生活などについて、直接、話しを聞く交流会が京機会総会当日の昼前から行われました。96社、1官庁より約200名の先輩に来て頂くことが出来ました。京機会という同窓会組織のネットワークを活用し、京都大学機械系のOBという視点から多くのことを学生に助言していただき来ました。学生がOBの方々と自分のキャリアプランを照らし合わせて、将来について考える絶好のチャンスとすることが出来ました。

学生には事前に、勉強用資料が配付され、また、各社に分かれたブースで先輩との話を聞くことのほかに、下記に示すような一般的テーマについてのパネルディスカッションも持たれました。

学生への呼びかけ資料の一部

パネルディスカッションについて

“企業の本音”聞きたいありませんか? ~パネルディスカッション~

12月3日(土)に行われる『学生と先輩との交流会』では企業ブースのほかに、パネルディスカッションという形で先輩方と企業を語る上でより“根本的”な内容について本音で話してもらう場を用意しました。

皆さん、いま志望している企業はどこですか?なぜ、その企業に行きたいのですか?みなさんの多くは就職先をイメージで選んでしまっているかもしれません。しかし、就職とは、入りたい会社が最初にあるのではなく、**なりたい将来像を実現するための場として選ぶべき**ではないでしょうか。

今回は、自分の将来像を実現できる環境を探していただくことが目的です。以下、詳細です。気軽に参加してみてください!

214講義室

テーマ:会社が大切にしているもの

第1回(12:00~12:50)

『**創造性**』

三菱レイヨン, 日機装, 中部電力,
岡村製作所, 日産自動車

第2回(13:00~13:50)

『**社員教育**』

旭硝子, 大王製紙,
村田機械, 新日鉄, ボツシュ

第3回(14:00~14:50)

『**実力昇進**』

NEC, TIS, 大気社,
三菱ふそうトラック・バス, プリチストン

215講義室

テーマ:会社が社員に求めるもの

第1回(12:00~12:50)

『**チャレンジ精神**』

デンソー, 三菱重工, コマツ,
コニカミノルタ, ニデック

第2回(13:00~13:50)

『**発想力**』

シャープ, 旭化成, 住友ゴム,
セイコーインスツル, アイシンAW,
フューチャーシステムコンサルティング

第3回(14:00~14:50)

『**行動力**』

JFEスチール, クラレ, ディスコ,
住友イートンバ, 三菱自動車

参加企業一覧：

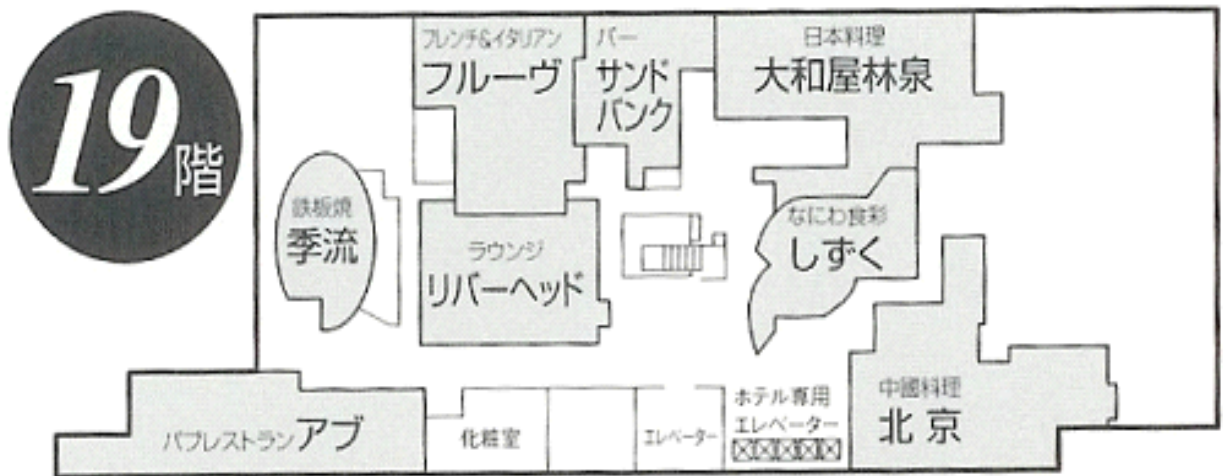
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	アイシン精機	旭化成工業(株)
旭硝子(株)	石川島播磨重工業(株)	宇部興産機械(株)
NTN(株)	大阪ガス(株)	(株)岡村製作所
川崎重工業(株)	関西電力(株)	(株)キーエンス
京セラ(株)	(株)クラレ	経済産業省
(株)神戸製鋼所	光洋精工(株)	コニカミノルタビジネスエキスパート(株)
コマツ	(株)SUMCO	サンテスト(株)
サントリー(株)	JAXA	JFE-STEEL(株)
(株)島津製作所	シャープ(株)	ジャトコ(株)
新キャタピラー三菱(株)	(株)神鋼環境ソリューション	新日本工機(株)
新日本製鐵(株)	住友イートンノバ(株)	住友化学工業(株)
住友金属工業(株)	住友ゴム工業(株)	住友重機械工業(株)
住友電気工業(株)	セイコーインスツル(株)	積水化学工業(株)
大王製紙(株)	(株)大気社	ダイキン工業
大同特殊鋼(株)	大日本印刷(株)	大日本スクリーン製造(株)
ダイハツ工業(株)	中部電力(株)	千代田化工建設(株)
TIS(株)	帝人グループ	(株)ディスコ
電源開発株式会社	(株)デンソー	東海旅客鉄道(株)【JR東海】
東京製綱(株)	(株)東芝	東邦ガス(株)
東洋エンジニアリング(株)	東レ(株)	凸版印刷(株)
豊田合成	トヨタ自動車(株)	(株)豊田自動織機
(株)豊田中央研究所	西日本旅客鉄道(株)【JR西日本】	日機装(株)
日産自動車(株)	(株)ニデック	日本アジア投資(株)
日本ガイシ(株)	日本精工(株)	日本製紙(株)
日本電気(株)【NEC】	(株)日立製作所	P & G
ファナック(株)	富士写真フイルム(株)	富士通(株)
富士電機(株)	フューチャーシステムコンサルティング	(株)ブリヂストン
古河電気工業(株)	ボッシュ(株)	松下電器産業(株)
マツダ	三菱化学(株)	三菱自動車工業(株)
三菱重工業(株)	三菱電機(株)	三菱日立製鉄機械(株)
三菱ふそうトラック・バス(株)	三菱レイヨン(株)	村田機械(株)
(株)村田製作所	ヤマハ(株)	ヤマハ発動機(株)
ローム(株)		

京機会クラブ誕生

便利の良いところで、フラッと立ち寄ればいつも誰か京機会メンバーがいて、話ができるような常設の京機会クラブが欲しいナーとかねてから言われておりましたが、このたび、1968年卒の平田誠計さんのお計らいで、JR大阪駅内のホテルグランビア大阪の3施設を京機会会員が特別に使わせて頂くことが出来るようになりました。



バー 『サンドバンク』



●ホテル内の専用エレベーターをご利用ください。



なにわ食彩 『しずく』



パブレストラン 『アブ』

¥5,000(飲み放題付)
「サンドバンク」と「アブ」では料理5品選択＋飲み放題
「しずく」では3品選択。最後に白御飯、赤だし、＋飲み放題

飲み放題のみの料金も設定。(¥2,500, 各種飲み物)

単品オーダー用の対応として「京機会様用割引」(10%程度)

京機会ボトルキープ 1000円で飲み放題
サンドバンクとアブではマグナムジャンボボトル(4.5リットル)
しずくではかめ入り焼酎(10リットル)

座席を優遇⇒窓側、カウンター

但し、

利用するには、メンバーズカードが必要です。

京機会総会出席者にはそのメンバーズカードを配布致しました。
支部総会、SOEサロン、MDTサロン、産学懇話会でも配布の予定です。

出来るだけこれら会合に出席しカードを受け取って頂きたいのですが、欠席されました方で、ご希望の方は、宛名を書いた返信封筒(切手も忘れないように)を同封の上、

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学工学研究科 機械理工学専攻内
京機会事務局 宛、

お申し込みください。 無料です。

**京機会会費を未納の方は、是非ともお払い込みください。
宜しくお願い申し上げます。**

われわれのルーツと朝永正三先生のノート

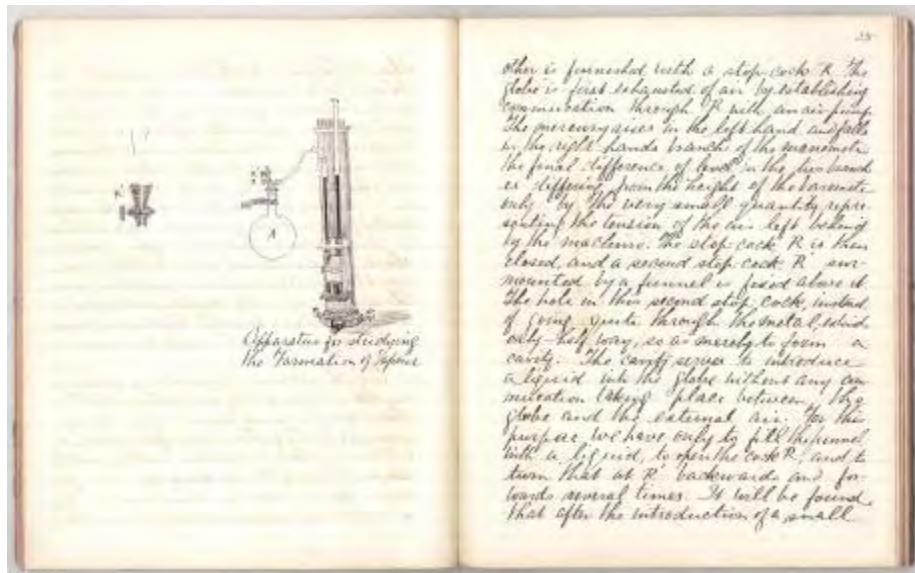
さきの京機会秋季総会(12/05)では、牧野俊郎教授(S.47)から、京都帝國大學機械工學科の初代教授であり同時に京都帝國大學の初代の教授でもあった朝永正三先生の紹介があり、このたび先生の貴重な遺品が京都大学機械系工学教室から京都大学文書館に寄贈されたことについて報告があった。その報告は明年3月発行の“京機会ニュース”の次号に掲載されるが、ここでは速報的に、牧野教授の総会での報告の一部を掲載する。
(久保愛三(S.41) 記)

京都大学機械系工学会
総会報告 H17.12.05.

京都帝國大學 初代の教授：
朝 永 正 三

長崎縣出身、弟に 三十郎
その子に 振一郎
工部大學校 (M10-19) 卒業・特許局審査官
ドイツ・イギリス に 派遣 (M29-31)
理工科大學 機械工學科 教授 (M31-T15)

朝永の一と
工部大學校時代の ノート 66 冊 + めも(ノート 30 冊相当)
奇贈 (ご令孫 → 機械系工学教室, S63)
奇贈 (機械系工学教室 → 大学文書館, H17)



9. 調和の原則 (1)

「鉄は国家なり」は、製鉄が突出した基幹産業であった富国強兵時代に生まれた言葉だが、その含蓄するところは「技術は国家なり」にある。武力より市場競争力の現在では技術への主たる関心が重厚長大から軽薄短小に移り、基幹産業の種類も多様化して鉄だけが国家ではなくなったが、根本にある「技術は国家なり」の観念はますます強固になって世界中に広まっている。技術は経済発展の原動力であり、国際経済競争の最強の武器であり、人間の生活を豊かにし、文化と福祉の向上に貢献するだけでなく、技術の副産物である資源消費と環境汚染さえも、最小限に抑える唯一無二の手段であると広く信じられ、技術研究開発への投資の増加と研究環境の整備および技術者育成の強化にどの国も余念がない。

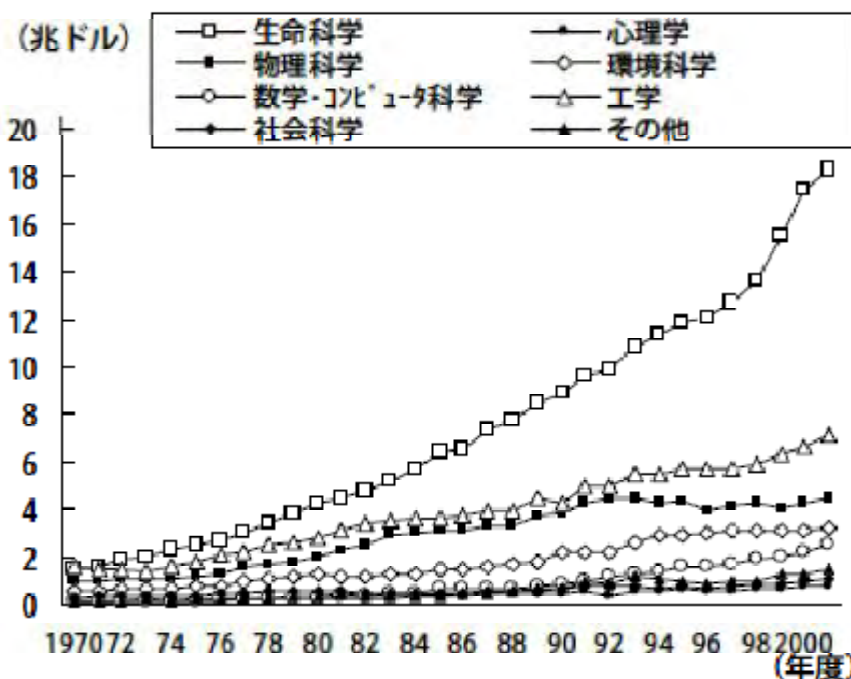
一方、技術に伴う問題点は多種多様に及ぶ。現代社会や我々の日常生活の形はすべて技術の土台の上に形成されたものであるから、環境汚染や資源枯渇だけでなく人間疎外、精神的な病の蔓延、貧富の差や不平等の拡大、大きな事件や事故、交通渋滞等々、現代社会が抱えるありとあらゆる問題は技術が直接間接の原因になっていると言っても過言ではない。それぞれの問題から受ける影響の大きさも問題の受け止め

方も人によって大いに異なり、中には人生や生命にかかわるほどの影響を受ける人もいるが、社会全体として見れば、現在のところ技術から受ける恩恵の代償として許容範囲と見なされ、我慢を強いられている。

しかし、現在はなんとか耐えられても、永久に耐え続けることができるわけではない。自覚症状が小さいから、被害者が少ないから、と置いて放置している間に状況は悪化し続ける。消費量が増え続けるエネルギーや

この記事中の地図・写真等は、本文と関係ありません。

米国連邦政府 R & D 研究予算の内訳



<http://www.jri.co.jp/research/ITPRC/>

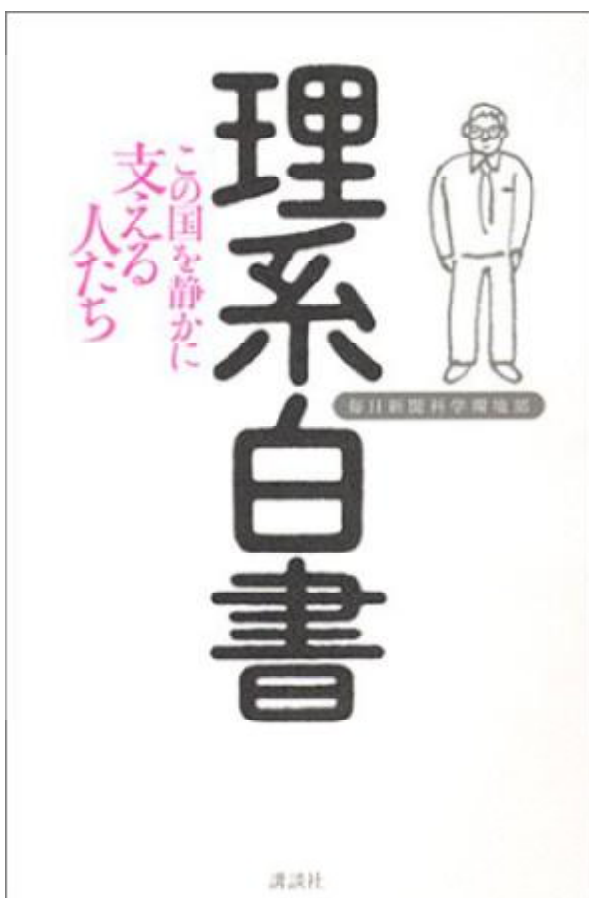
資源はいずれ必ず底を突くことが明白であるし、世界中の環境や生物の体内に蓄積されつつある数知れない種類の残留化学物質が、いつか大変な結果を顕す可能性は大きい。また、問題の状況は同じでも、人々の考え方や政体の変化によって、いつでも放置できない問題に変わり得る。高度成長末期になって法律的・行政的に強い公害対策がとられるようになったのも、その時急に状況が悪化したというより、先駆者の努力と輿論の高まりの結果であった。当時の日本以上にひどい大気汚染や水汚染が現在なお放置されている国があるのは、財源不足に帰せられることが多いが、民主制の問題でもある。技術の弊害の問題は今後ますます大きくなりこそすれ、小さくなることはまずないであろう。

先進国か途上国かにかかわらず、環境問題をこのまま放置できないと考える人は既に大勢を占めていると思われる。環境問題の根本原因が大量消費型の生活であることも十分周知されている。ところが、人々の実際の行動はその建前の意識とは逆である。豊かな国の人々はその生活様式を変えるのとは逆に、自らの経済収入を一層大きくするために、途上国にもその生活様式を売り込もうとし、途上国は、まずは豊かにならなければ環境保護まで手が回らないと弁明しつつ、大量消費社会の建設にいそしんでいる。そして世界中に共通することは、環境問題を解決できるのはやはり技術しかないという、技術への絶対的信頼である。これを Technomania (技術狂い) と言おうか、Technophilia (病的な技術愛好) と言おうか、いずれにしても、理性

に基づく信頼というよりは理屈抜きの妄信と言ってもよい。しかし、環境問題の主因である大量消費型の社会を造ったのは技術である。技術は国家なりと技術一辺倒で来た間に、技術は国家を蝕む病の本になった。技術はなぜ大量消費社会を造り、なぜこれほど多くの問題を生むのか、技術のどこに問題があるのか、という根本的な問題に注意を向けず、ひたすら技術を妄信するだけでは、病はますます深刻になる一方である。

(つづく)

(1964年卒 石田靖彦 isiyas@aa.bb-east.ne.jp)





キャリアプランニング型工場見学

私たち京機学生会 SMILE は、先日 11 月 24、25 日に関東地区にてキャリアプランニング型工場見学を行いました。本企画の目的は、就職を控えた M1・B3 の学生を対象とし、機械系技術者の先輩方が活躍されている様々な業界及び企業を見学し、先輩方とディスカッションを行うことにより短期的な就職活動についてだけでなく中・長期的な人生設計（キャリア）について深く考えること、そして普段なかなか交流する機会のない関東地区の先輩方と交流することです。



今回の企画では、京機会関東支部の先輩方に多大なご支援・ご協力により、住友重機械横須賀製造所様、日産自動車追浜工場様、日立製作所生産技術研究所様、日本航空羽田整備場様の各工場を見学させていただきました。さらに 1 日目の夜に先輩方と学生との懇親会、2 日目の日本航空様見学後に日本航空の先輩方とキャリアプランニング企画（グループディスカッション）を行いました。

まず 1 日目午前の日産自動車追浜工場様では、生産ラインの上流（鋼板のプレス加工）から下流（船への積み込み）までの見学、先輩方との昼食懇談会、燃料電池自動車 FC-V の体験同乗等を行いました。生産ラインにおける日産独自の工夫、燃料電池自動車の仕組みなど興味深い点が多く、昼食懇談会では燃料電池自動車の将来性や、なぜ部品メーカーでなく完成車メーカーを選ばれたのかなど、活発な話し合いがなされました。

次に1日目午後の住友重機械横須賀製造所様では、造船所を見学した後、レーザ、メカトロ、サイネックス等の精密機械についてご説明いただき、その製造現場を見学いたしました。造船所で建造される船舶の大きさにも驚きましたが、その後見学させていただいたレーザ、メカトロなどのナノレベルの精度が求められる精密機械の製品群に、一言で重工業といっても本当に幅広い製品を作っているという新鮮さを感じました。先輩がおっしゃられた、機械系の活躍できる分野は広いという言葉が印象的でした。

1日目の夜には、京機会関東支部の先輩方と学生との懇親会を行いました。様々な年齢・業種の先輩にお集まりいただき、食事・お酒を囲みながらざっくばらんな雰囲気の中、交流を図りました。学生にとっては、自分と同じ機械系出身の先輩方に、現在の学生生活や将来のことについて相談することができ、得るものが非常に大きかったようです。

2日目午前の日立製作所生産技術研究所様では、生産システムや検査システムについて説明していただき、その後ユビキタスプラットフォームにて今現在話題となっている薄型テレビや次世代DVDの見学を行いました。先輩方が会社で行われた研究を発表していただくことにより、普段どういう仕事をされているのか、より詳しく知ることが出来ました。そして、薄型テレビや次世代DVDに使われている基板を一世代、二世代前のものと比較すると、その違いの大きさに驚き、電機業界が、いかに競争が激しく変化の速い業界であるかということを確認いたしました。

最後に、2日目午後の日本航空羽田整備場様では、B747、B767の整備の様子を見学しました。普段は空港で遠くから眺めるしかない航空機を、整備のために様々なパーツが外され中まで覗き込める状態で、先輩に説明していただきながら見学することで、航空機に詰め込まれている様々な技術に触れることができ、非常に興味深い見学となりました。また、機械系での就職という、すぐに研究・設計開発・生産のどれにしようかと考えますが、整備という非常におもしろい分野もあることを再認識いたしました。

今回の工場見学では、日本航空羽田整備場様見学後にキャリアプランニング企画と題しまして、日本航空の先輩方と『学生と社会人の違い』というテーマでグループディスカッションを行いました。この企画は、学生と社会人の違い、学生から社会人になって変わった事について話し合うことにより、今の自分には何が欠けているのか認識し、これから社会人になるに当たってどう成長していけばよいのか、そのために目指すものは何かという指針を得ることを目的としたものです。

具体的には、

- (1) 社会人になるにあたって仕事をする上で身に付けたい能力はなにか？それはなぜ必要で、それはどうやって身に付けるか？
- (2) 仕事以外の面で、社会人になって変えたいこと、逆に変えたくないことは？

という2テーマについて事前に考えをまとめ、工場見学、懇親会を通して考えを深めてディスカッションに臨みました。

何か一つの答えに収束するテーマではなく、様々な意見が出て各グループともに非常に盛り上がりました。その中で特に心に残ったのは、『大事なのは自分がどういう人間になりたいかで、能力はそのための手段でしかない』『能力を身に付けるために、社会人になってからではなく今からでもやれることは、今すぐにやるべき』ということでした。

今回の工場見学に参加された学生からは、

「非常に有意義で楽しい時間をすごせた。就活を進めていく上でプラスになる何かを得ることができた。」

「幅広い年代のOBの方々とお話できて満足です。それぞれの立場によって視点が違い、自分自身の将来を考える良い材料となったと思います。」

「自分の意見、同じM1の意見、そして年代・立場が違うOBの方々の意見を比較することで視野が広がったと思います。非常に有意義でした。」

などの意見を得、工場見学・懇親会・キャリアプランニング企画に対して満足していたと思います。

学生フォーミュラ報告

KART 11月期活動

文責：高木 隆史

新しい組織も徐々に形になってきて、運営も本格的に始まりました。設計も始まり、初めて設計する人たちも一生懸命勉強し、上回生は一生懸命サポートして設計を進めていく。

11月はそんな月でした。

全体ミーティング

私たち KART は定期的な活動時間を持たず、メンバーは授業との兼ね合いがあるため平日の昼休みしか一斉に会えるときはありません。そこで、毎週火曜日 12:00

～ 13:00 がミーティングだったのですが、今までは適当だったため 13:00 を過ぎてしまうこともたびたびありました。そこで、レジユメを作りミーティングをよりシステムティックにしました。連絡事項だけですむ内容はレジユメに書いておき最低限の時間ですむようにしました。

リーダーミーティング

全体ミーティングだけでは時間が限られているため十分な議論・意思疎通ができません。そこで、各班リーダーを集めて週に一度ミーティングをしています。進行状況の確認・各班同士の意思疎通・重要事項の決定はここで行っています。

琵琶湖スポーツランド走行会

11月11日には琵琶湖スポーツランド様で走行させていただきました。生憎の雨の中でしたが、新メンバーを含め、これまで一度も運転したことのない人間が車両に乗りました。目的は設計に携わる人には現在の車両を知ってもらい、そこから次の車両の設計に活かしてもらいたいということです。みんな数周のみの短い走行だけでしたが、実際の車両を運転したことで何か思ったことは多いようです。なによりメンバーのモチベーションがかなり上がったのは間違いありません。

北陸地区講演会

11月19日には金沢大学様が主催された、北陸地区講演会に行ってきました。これは、モータースポーツの世界で活躍なさっている永島様をお迎えして学生フォーミュラに参加している大学生を対象にした勉強会です。日本全国広い範囲からさまざまな大学が集まり、普段聞くことができない



い貴重な経験談を聞いたり、設計上の疑問に答えていただいたりしました。また、その後には懇親会もあり、いろんな大学の人と酒を飲みながら交流を深めました。どの大学も自分たちと同じような悩みを抱えていることがわかり、とても有意義な一日でした。

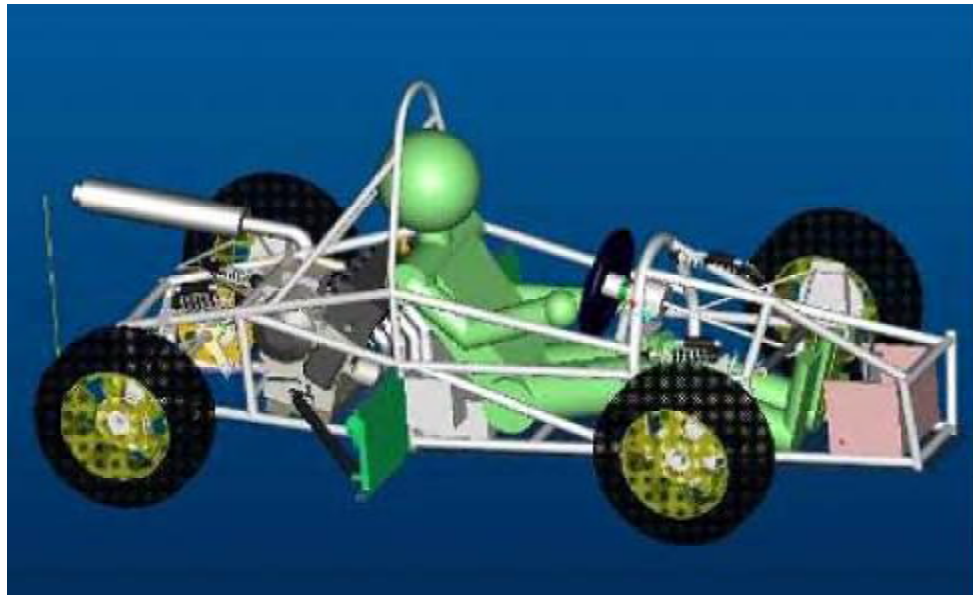
N F

京都大学の学祭、11月祭に私たちも2005年度大会参加車両YJ-R02を展示しまし

た。モータースポーツにあまり興味のない人も、強く興味を持っている人も、たくさんの人とふれあうことができました。

YJ-R03

現在私たちは YJ-R03 を設計中です。3DCAD を用いてパーツをアッセンブルしながら、各パーツの概形や干渉などを考慮に入れつつ設計を進めています。来年の春のシェイクダウンに向けて順調にすすんでいます！



ご支援のお願い

KARTでは、資金・部品提供、技術指導をしてくださるスポンサー企業様、サポーター様を募集しております。資金は一口五千円でお願いたします。ご支援に対しては、活動報告書の送付、HPやマシンへの広告記載などをさせていただきます。KART成功のため、何卒ご協力お願い申し上げます。

振込先

京都銀行銀閣寺支店

店番141 口座番号3242776

名前：KART FA 橋小路 幸哉

連絡先

代表 高木 隆史 takagi@t02.nbox.media.kyoto-u.ac.jp

チームHP <http://www.formula-kart.org/top.html>

